

2018年3月期 決算説明会

長瀬産業株式会社
2018年5月25日

Copyright © 2018 NAGASE & CO., LTD.

目次

2018年3月期 決算概況	P. 3
2019年3月期 通期業績見通し	P. 15
中期経営計画「 ACE-2020 」の進捗	P. 21
米州におけるビジネスについて	P. 30
(参考資料)セグメント別概況	P. 40

2018年3月期 決算概況

連結損益計算書

✓売上高・各利益ともに過去最高を更新

- 売上高：基盤領域(機能素材・加工材料セグメント)を中心に伸長し、全セグメントともに増収
- 営業利益：市場が好況であったことに加え、中期経営計画の施策が収益改善に貢献
また退職給付会計における数理計算上の差異の償却額が減少(28億円)し、増益

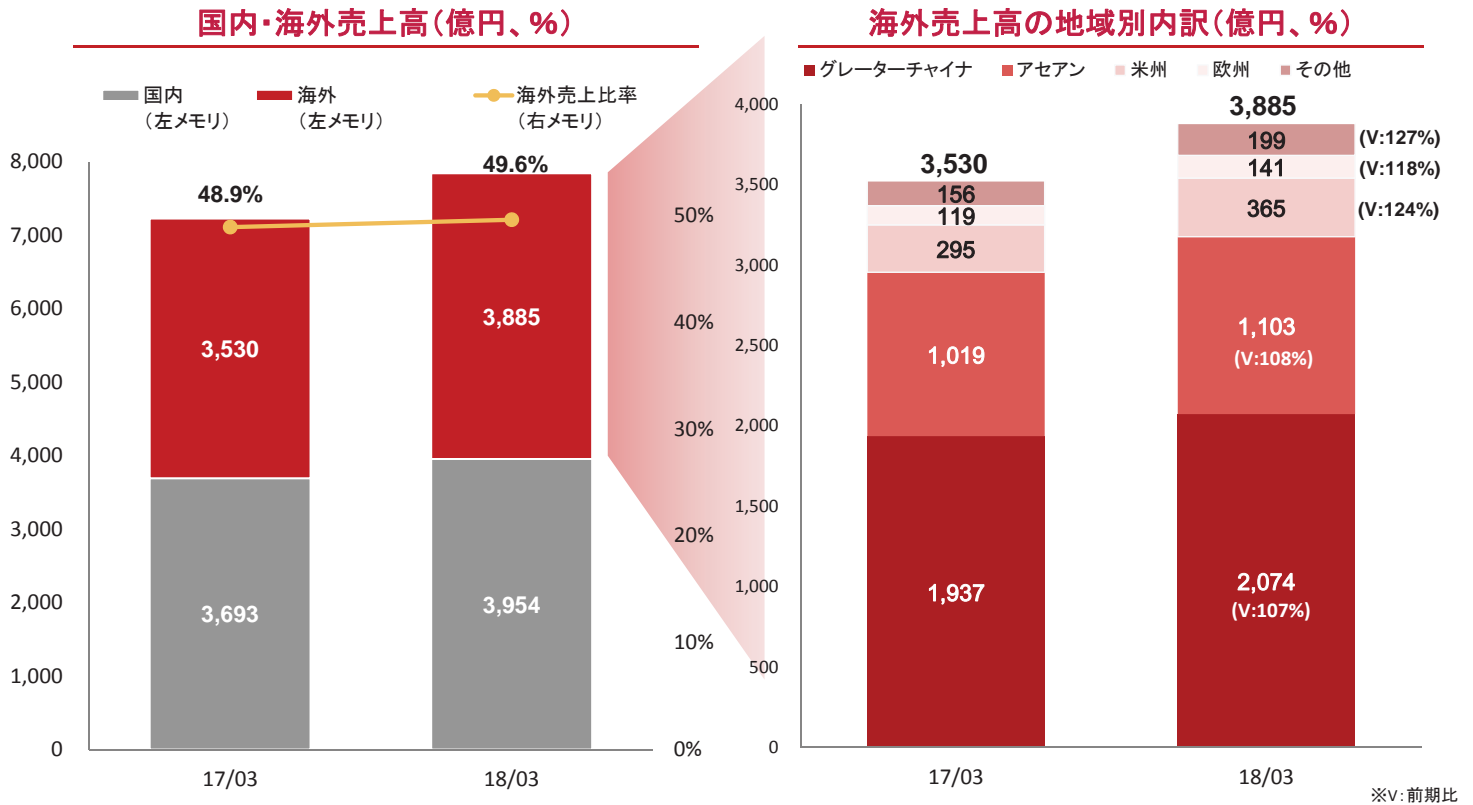
(単位:億円)

	17/03	18/03	増減額	前期比	通期見通し (11月2日公表)	計画比
売上高	7,223	7,839	+ 615	109%	7,710	102%
売上総利益	915	1,026	+ 111	112%	1,000	103%
<利益率>	12.7%	13.1%	+0.4%	-	13.0%	-
販売費及び 一般管理費	764	785	+ 20	103%	765	-
営業利益	150	241	+ 90	160%	235	103%
経常利益	163	259	+ 96	159%	255	102%
親会社株主に帰属する 当期純利益	103	171	+ 68	166%	160	107%
US\$レート (期中平均)	@ 108.4	@ 110.9	@ 2.5 円安		@111.0	-
RMBレート (期中平均)	@ 16.1	@ 16.7	@ 0.6 円安		@ 16.4	-

【為替変動による18/03期実績 売上高および営業利益への影響額】
売上高:約+157億円 営業利益:約+5.7億円

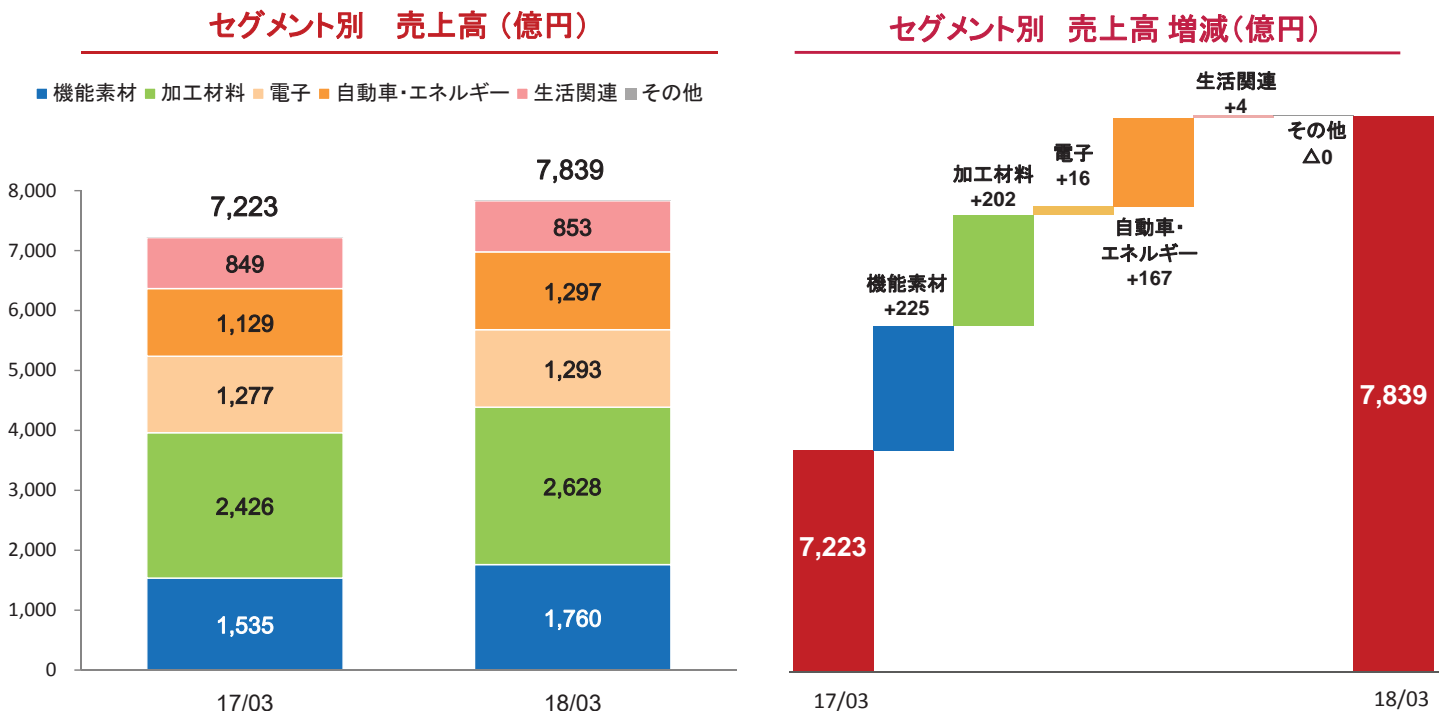
【1円変動当たり影響額】
売上高US\$:約14億円 営業利益US\$:約0.2億円
RMB:約72億円 RMB:約2.4億円

■国内ならびに海外の全地域において増収(海外売上比率49.6%)



セグメント別売上高2期比較

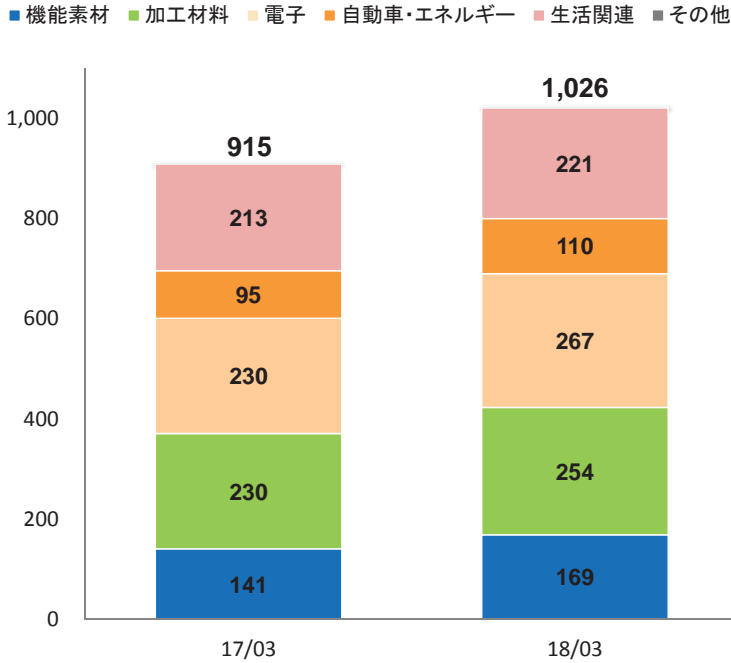
- 機能素材：自動車生産台数の堅調な推移による塗料原料およびウレタン原料の売上、またエレクトロニクスケミカル等の売上が増加し、更に米スペシャリティケミカル・ディストリビューターFitz Chem社を買収した影響等もあり、全体で増収
- 加工材料：国内外において、新規商権の獲得等もあり、合成樹脂等の売上が増加し、増収



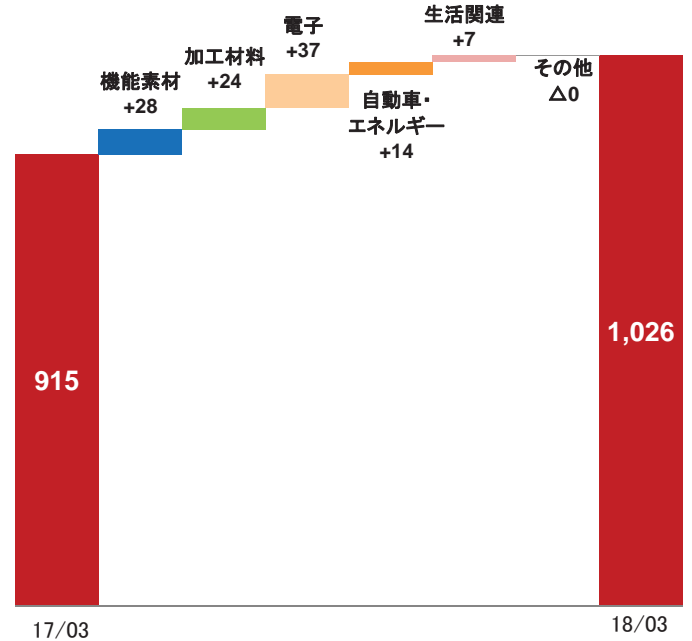
セグメント別売上総利益2期比較

- 増収の影響を受け、増益
- 製造事業が好調に推移したこと等によるプロダクトミックスの改善により、利益率0.4%向上

セグメント別 売上総利益 (億円)



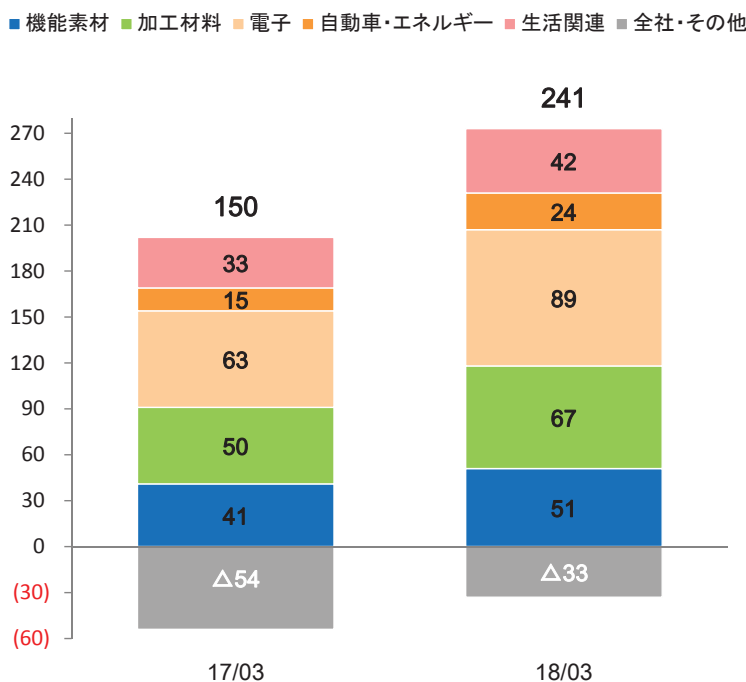
セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



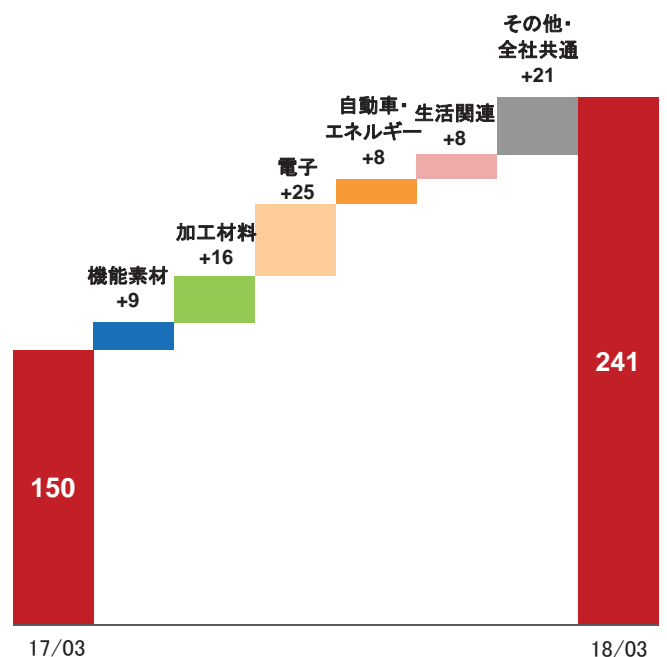
セグメント別営業利益2期比較

- 全セグメントが増収となったことに加え、電子部品製造装置等の製造子会社の収益改善が寄与
- 全社共通セグメントの退職給付会計における数理計算上の差異の償却額が減少し、全体として90億円の増益

セグメント別 営業利益 (億円)



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



主な連結子会社等の業績

■ナガセプラスチックは、新規商権の獲得および電子業界向けスーパーエンジニアリングプラスチックの販売が増加したこと等により、増収増益

■上海長瀬貿易有限公司は、前期設立したフトリツ材料製造会社(無錫澄泓微電子材料社(持分法適用会社))がフル稼働しており、中国ディスプレイメーカー向けに同社のフトリツ材料、またディスプレイ関連部材の販売等が好調に推移し、増収増益

(単位:億円)

社名		売上高	前期比	営業利益 ^(注2)	前期比
製造会社	林原	243	102%	50	109%
	ナガセケムテックス	259	101%	29	100%
	製造会社計 ^(注1)	107	111%	114	126%
国内販売会社	ナガセプラスチック	361	113%	9	133%
	西日本長瀬	80	102%	3	70%
	ナガセケミカル	185	117%	3	111%
	国内販売会社計 ^(注1)	913	110%	25	128%
海外販売会社	Nagase (Thailand) Co., Ltd.	378	113%	11	134%
	上海華長貿易有限公司	383	111%	8	90%
	上海長瀬貿易有限公司	409	123%	7	168%
	Nagase Vietnam Co., Ltd.	140	122%	3	152%
	海外販売会社計 ^(注1)	3,336	110%	88	135%

※(注1) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

※(注2) 営業利益は、のれん及び技術資産等の償却前の数値となります。

主要製造子会社の状況: 林原

■林原:トレハ®およびAA2G®の販売が好調に推移し、さらにファイバリクサ™や林原ヘスペリジン®S等の高機能素材商品の新規採用等もあり増収となり、利益面においては原材料費の低位安定等も寄与し増益

林原

(単位:億円)

	17/03	18/03	増減額	前期比
売上高	238	243	+5	102%
営業利益	46	50	+3	109%

- ・トレハ®は、特に欧州を中心に海外販売が増加し、増収
- ・AA2G®は、海外販売が減少したものの、国内においてインバウンド需要の取り込み等により売上が増加し、増収
- ・ファイバリクサ™および林原ヘスペリジン®S等の高機能素材商品が食品業界向けに新規採用され、売上が増加
- ・医療・健康食品用ハードカプセルおよび口中清涼フィルム向けにプルランの売上が増加

〈高機能素材商品の販売増加〉

水溶性食物繊維「ファイバリクサ™」



- ・林原がNAGASEグループ入りして以来、初の新製品
- ・腸内フローラを改善させる作用あり
- ・2015年に上市して以来、機能性表示食品への採用が増加
- ・血糖値上昇抑制作用のメカニズム確認
- ・更なる用途開発を加速

糖転移ヘスペリジン「林原ヘスペリジン®S」



- ・糖転移ヘスペリジンに血中の中性脂肪を低下させる作用あり
- ・機能性表示食品への採用増加
- ・アジアおよび欧米でのマーケティング実施

⇒トレハ®・AA2G®に次ぐ基幹商品へ

主要製造子会社の状況: ナガセケムテックス

■LCD業界向け導電性材料の売上が減少したものの、新規ビジネスの獲得および顧客稼働率の向上等によりフトリソ材料事業が好調に推移

ナガセケムテックス

(単位: 億円)

	17/03	18/03	増減額	前期比
売上高	256	259	+3	101%
営業利益	29	29	+0	100%

- ・エポキシ樹脂事業は、半導体用途をはじめ重電・弱電向けに販売が堅調に推移し、売上は横ばい
- ・フトリソ材料事業は、新規ビジネス獲得および顧客稼働率向上等により、増収
- ・機能化学品事業は、LCD業界向け導電性材料等の販売が低調に推移し、減収



※連結子会社: 長瀬電子材料有限公司、Engineered Materials Systems, Inc.、INKRON社
 持分法適用会社: 無錫澄泓微電子材料有限公司
 関連会社: 綿陽澄泓微電子材料有限公司

連結貸借対照表

- 資産: 売掛金・たな卸資産の増加および時価上昇による投資有価証券の増加等により、406億円増加
- 負債: 買掛金・借入金の増加等により、270億円増加
- 純資産: 親会社株主に帰属する当期純利益171億円の計上のほか、その他有価証券評価差額金の増加等により、136億円増加
- 自己資本比率は、1.6ポイント減少し、53.1%

資産

	17/03	18/03	増減額
流動資産	3,212	3,561	+ 348
現金・預金	398	433	+ 34
受取手形・売掛金	2,068	2,259	+ 191
たな卸資産	631	736	+ 105
その他	114	131	+ 17
固定資産	2,095	2,153	+ 57
有形固定資産	676	672	△ 3
無形固定資産	407	410	+ 3
投資・その他の資産合計	1,011	1,070	+ 58
投資有価証券	945	1,004	+ 58
その他	66	66	+ 0
資産合計	5,307	5,714	+ 406

負債及び純資産

(単位: 億円)

	17/03	18/03	増減額
流動負債	1,664	1,930	+ 265
支払手形・買掛金	1,020	1,180	+ 159
借入金・CP・1年内償還予定の社債	416	480	+ 63
その他	227	270	+ 42
固定負債	690	696	+ 5
長期借入金・社債	400	379	△ 21
退職給付に係る負債	146	145	△ 1
その他(繰延税金負債等)	143	171	+ 27
負債合計	2,355	2,626	+ 270
純資産	2,951	3,088	+ 136
株主資本	2,396	2,502	+ 106
その他の包括利益累計額	505	533	+ 28
その他有価証券評価差額金	476	507	+ 30
為替換算調整勘定	31	29	△ 2
その他	△ 2	△ 3	+ 0
非支配株主持分	49	51	+ 1
負債及び純資産合計	5,307	5,714	+ 406

■営業CF+210億円(税金等調整前当期純利益+240億円等)、投資CF▲144億円(有形・無形固定資産の取得に伴う支出▲72億円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式取得 ▲59億円等)、財務CF▲31億円(社債の償還▲100億円等)に換算差額影響等を加味した結果、全体として31億円の資金の増加

キャッシュ・フローの状況

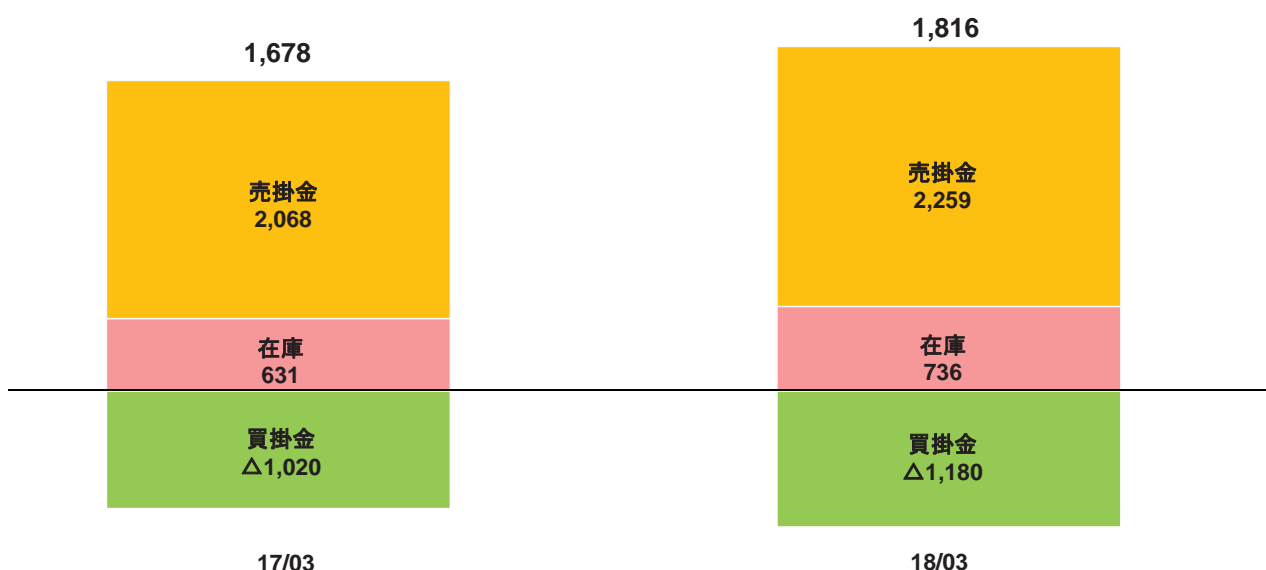
(単位:億円)

	18/03	主な内訳	17/03
営業活動によるキャッシュ・フロー	210	税金等調整前当期純利益 +240 減価償却費・のれん償却 +110 運転資金の増減 ▲119 法人税等の支払 ▲48	145
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 144	有形固定資産の取得による支出 ▲66 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 ▲59 投資有価証券の取得による支出 ▲16 無形固定資産の取得による支出 ▲5	▲ 65
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 31	長期借入金増減 +51 コマーシャル・ペーパーの純増減額 (▲は減少) +50 短期借入金の純増減額 (▲は減少) +36 社債の償還による支出 ▲100 配当金の支払 ▲42	▲ 105
現金および現金同等物に係る換算差額	▲ 1		▲ 5
現金および現金同等物の増加額(▲減少額)	32		▲ 31
現金および現金同等物の期首残高	397	日本 254、グレートチャイナ70、アセアン35、欧州18、米州5、その他13	429
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額等	▲ 1		—
現金および現金同等物の期末残高	428	日本 226、グレートチャイナ105、アセアン46、欧州30、米州4、その他12	397

運転資金の増減

■売上の増加に加え、一部業界において供給タイトな状況が続いており、継続的に供給すべく在庫を政策的に積み増し。その結果として、運転資金が増加

運転資金 (億円)



2019年3月期 通期業績見通し

2019年3月期 業績見通し

■加工材料において合成樹脂等の売上が増加する等、電子を除く全セグメントの売上が増加し、全体として増収増益見通し(電子は、カーエレクトロニクス関連ビジネスを自動車・エネルギーへ移管しており、当該影響を除くと売上・利益ともに前年並みの見通し)

(単位:億円)

	18/03実績	19/03見通し	増減額	前期比
売上高	7,839	8,280	+440	106%
売上総利益	1,026	1,073	+46	105%
<利益率>	13.1%	13.0%	△0.1%	—
販売費及び一般管理費	785	818	+32	104%
営業利益	241	255	+13	106%
経常利益	259	275	+15	106%
親会社株主に帰属する当期純利益	171	186	+14	108%
US\$レート (期中平均)	@110.9	@105	5.9円高	—
RMBレート (期中平均)	@16.7	@16.5	0.2円高	—

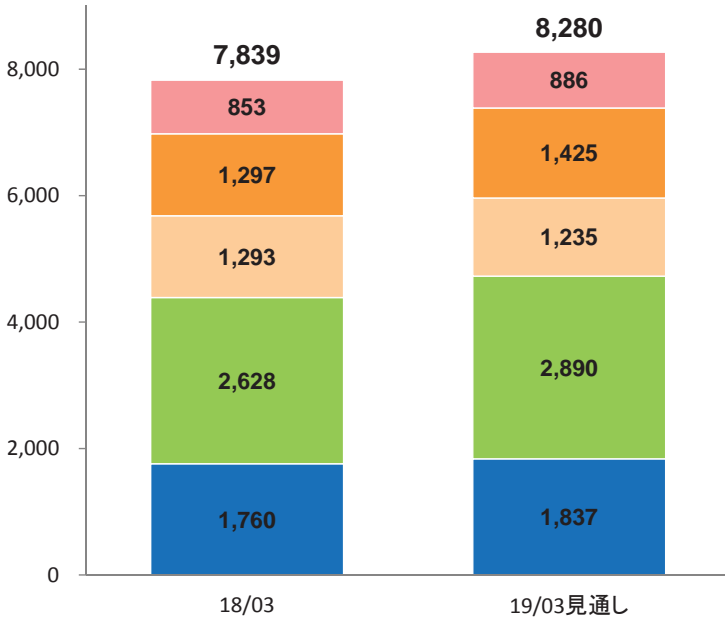
セグメント別売上高見通し

■加工材料: 前期開始した新規商権(新エリア・新サプライヤー)が拡大し、ゲーレーター・チャイナ・アセアンを中心にOA・ゲーム・電子機器向け合成樹脂、また情報印刷関連ビジネス等が好調に推移し、増収見通し

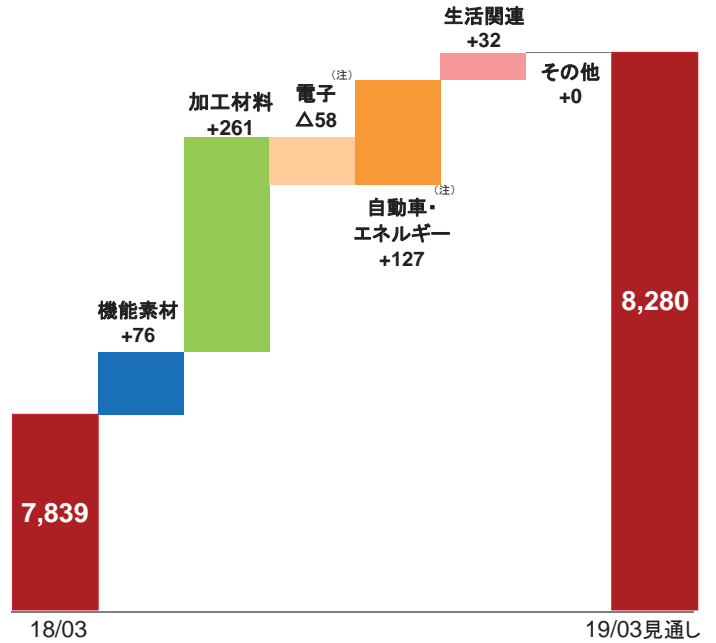
■自動車・エネルギー: 自動車の電気・電子化に伴い、国内外で高機能材料およびカーエレクトロニクス関連部材の販売が好調に推移し、増収見通し

セグメント別 売上高 (億円)

■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■自動車・エネルギー ■生活関連 ■その他



セグメント別 売上高 増減(億円)



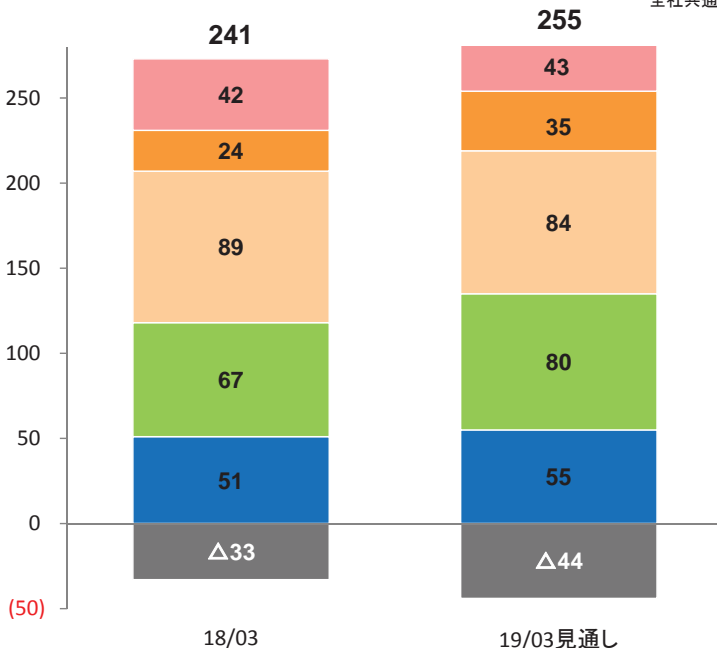
(注) 電子セグメントのカーエレクトロニクス関連ビジネスを自動車・エネルギーセグメントへ移管しており、当該移管の影響を除いた場合、電子セグメントは前年並みとなります。

セグメント別営業利益見通し

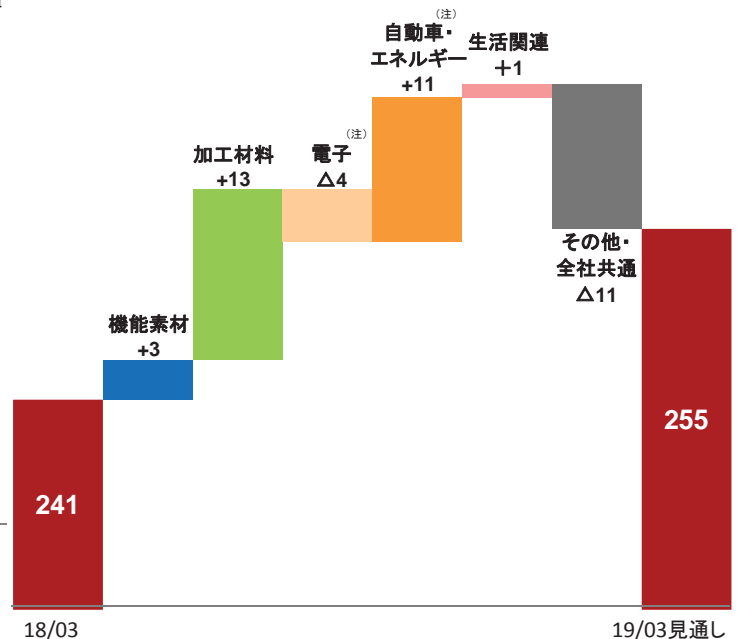
■電子は前年並み(ビジネス移管除く)となるものの、他全セグメントにおいて増益となり、全体で13億円増益見通し

セグメント別 営業利益 (億円)

■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■自動車・エネルギー ■生活関連 ■その他・全社共通



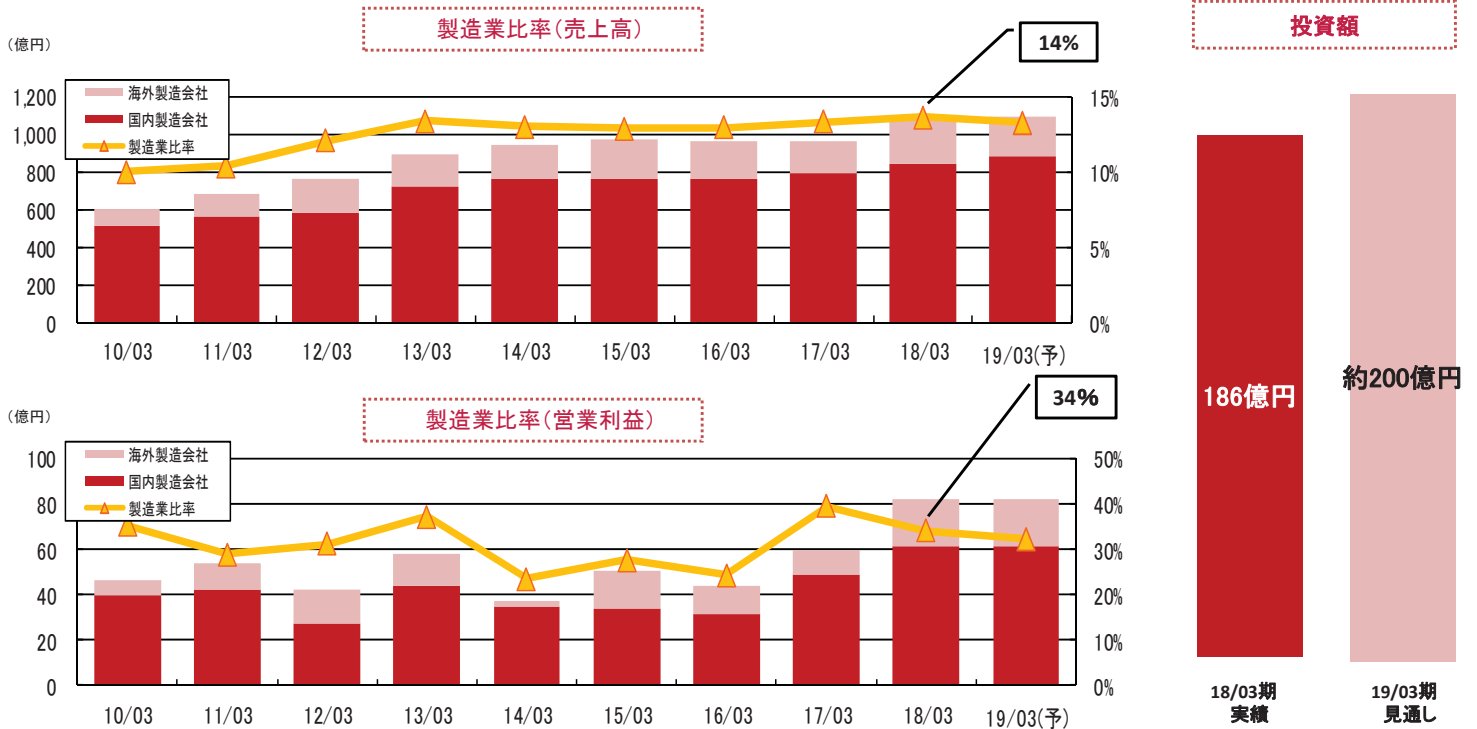
セグメント別 営業利益 増減(億円)



(注) 電子セグメントのカーエレクトロニクス関連ビジネスを自動車・エネルギーセグメントへ移管しており、当該移管の影響を除いた場合、電子セグメントは前年並みとなります。

製造業比率および投資額

■中期経営計画「ACE-2020」において注力領域として掲げるライフ&ヘルスケアおよびエレクトロニクスを中心とした成長投資を行い、独自性・優位性を創出し、企業価値の向上を図っております。



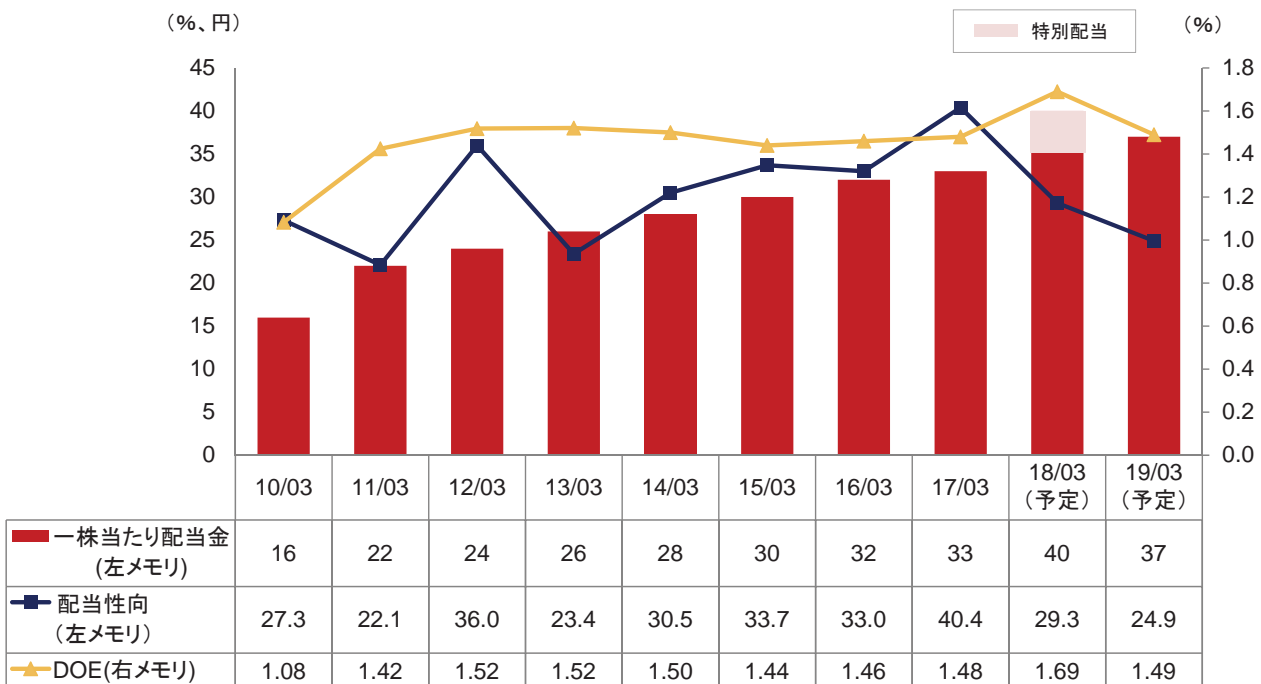
Copyright © 2018 NAGASE & CO., LTD.

19

配当状況

■当期: 中間配当金17円、期末配当金23円(普通配当金:18円、特別配当金5円)の年間配当金40円を予定

■来期: 中間配当金18円、期末配当金19円の年間配当金37円を予定(普通配当金2円増配)



※18/03 期の期末配当金は、2018年6月開催予定の定時株主総会に附議予定

Copyright © 2018 NAGASE & CO., LTD.

20

中期経営計画「ACE-2020」の進捗

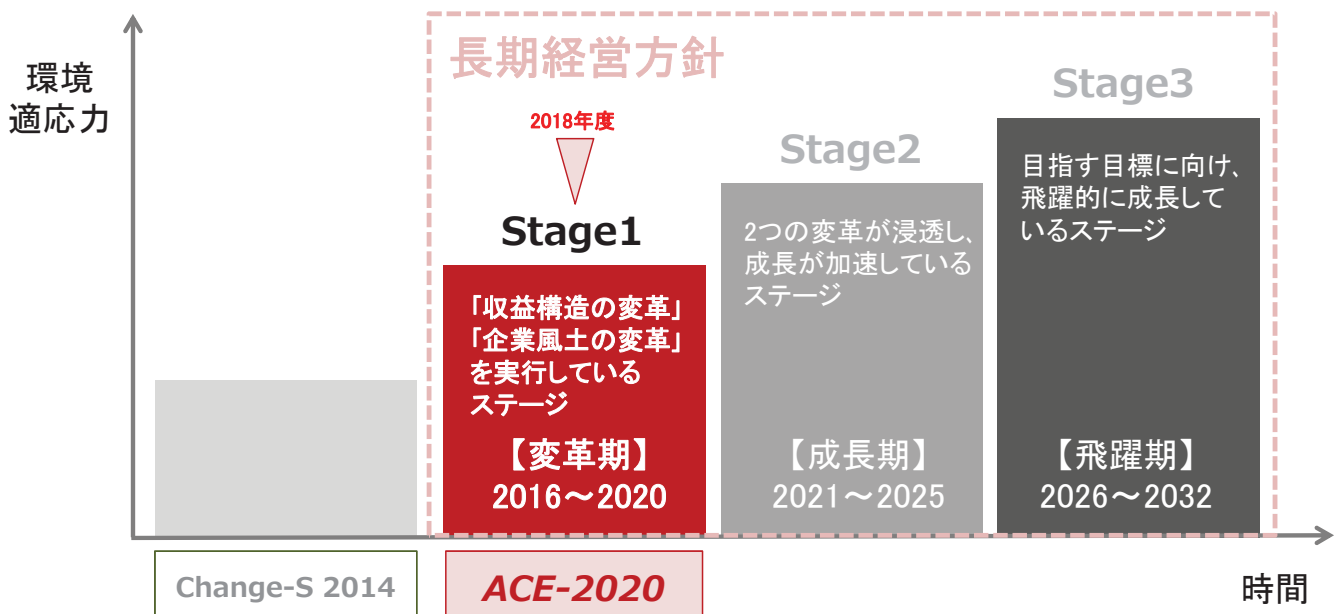
Accountability(主体性)・ Commitment (必達)・ Efficiency(効率性)

ACE-2020 位置づけ



長期経営方針の最終年度にあたる2032年までに、我々が目指す目標*を実現するために、この17年間で3つの Stageに分け、Stage1として中期経営計画「ACE-2020」をスタートしました。2018年度は「ACE-2020」の3年目として、引き続き、飛躍的な成長に向けて変革を進めてまいります。

* 目指す目標「現行(2014年度)比3倍の利益水準を常態化」



商社からビジネスをデザインするNAGASEへ

商社中心の考え方から、商社をグループの機能のひとつと考え、グループ一丸となって世界へ新たな価値を創造・提供するNAGASEを目指します



【6つの機能】

グループの持つ機能を最大限活用し、定量・定性目標を必達

収益構造の変革

ポートフォリオの最適化

事業の仕分けと領域にあった戦略の実行
資産入替と資源の再配分
全社規模の投資加速

収益基盤の拡大・強化

グローバル展開の加速 “G6000”
製造業の収益力向上

企業風土の変革

マインドセットの徹底

主体性と責任感の醸成
トップメッセージの共有化
モニタリングとPDCAの徹底

経営基盤の強化

効率性の追求
人財育成

「収益構造の変革」: ポートフォリオの最適化

事業の仕分けと領域にあった戦略の実行 / 資産入替と資源の再配分

経営資源の最大効率化を進めるために、事業を4つの領域、「育成」「注力」「基盤」「改善」に仕分けし事業を拡大する
不採算事業の整理を加速し、再配分可能な経営資源の確保と積極的な成長投資を行う(資産入替)

注力領域 さらなる収益拡大を見込む事業領域

【エレクトロニクス】

- 東洋紡(株)とポリイミドフィルム生産・販売の合併会社設立
- 有機ELベンチャー(株)Kyuluxに出資
- 無錫澄泓微电子材料社が四川省綿陽市へ法人設立
- 「半導体材料・プロセス部」を新設、グローバル半導体戦略を立案

【ライフ&ヘルスケア】

- リヨン支店開設、ヨーロッパ化粧品事業拡大を目指す
- ペプチスター(株)へ出資、次世代医薬品を開発
- 林原、食品素材事業の一体運営化と生産戦略機能を強化

基盤領域 安定的に企業価値向上に貢献する領域

- 米国スペシャリティケミカル・ディストリビューターFitz Chem社を買収
- 大泰化工(株)を買収
- 酸性腐食環境に有効な反応性塗料、PatInaLock®-Σ開発
- 樹脂販売事業、高機能樹脂拡販により収益向上

育成領域 3年以内に注力領域への転換を期待する領域

- 中国惠州に合併会社設立、中国カーエレクトロニクス関連部材拡大を目指す
- インド自動車部品メーカーとの合併会社へ追加出資、成長市場におけるパートナーシップ強化
- 脳型デバイス、生物模倣応用技術等を研究


改善領域 早期に抜本的な収益構造の改善が必要な領域

- ラウディ(株)の株式売却
- 川合肥料(株)の株式売却
- 不採算事業からの撤退
- 不採算製造業の収益改善


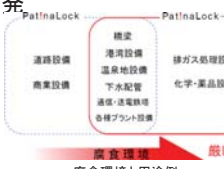
事業外の資産入替

- 遊休資産を売却

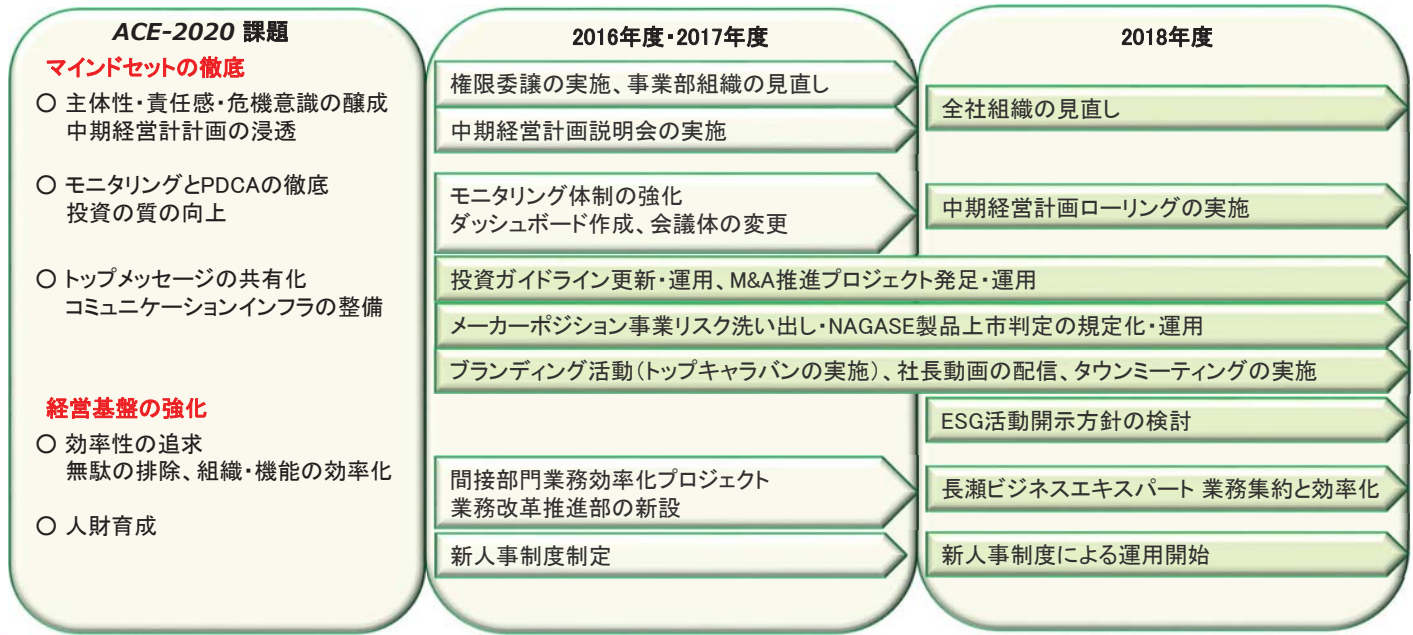
KGI達成に向けた新たな取組み ①

<p>ゼノマックスジャパン(株)設立</p> <p>注力領域: 投資, 製造, 海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東洋紡(株)との合併会社 ○ 高耐熱性ポリイミドフィルム「ゼノマックス®」の製造販売 ○ 早期に100億円規模を目指す <p>目指す市場: 次世代ディスプレイ市場</p>  <p>西川福井県知事(左)、東洋紡(株) 榎原社長(中央)</p>	<p>綿陽澄泓微電子材料有限公司設立</p> <p>注力領域: 投資, 製造, 海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中国澄星集団との合併会社である無錫澄泓微電子材料社が設立 ○ 中国の薬液供給事業のエリア展開 <p>目指す市場: 中国液晶・半導体市場</p>  <p>工場内設備 (剥離剤貯蔵タンク)</p>
<p>惠州三力協成精密部件有限公司設立</p> <p>育成領域: 投資, 製造, 海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科達利實業股份有限公司、(株)アテックスとの合併会社 ○ 精密金属成型部品の製造販売 ○ 電気駆動系用部品の供給 <p>目指す市場: 中国新エネルギー車市場 (EV、PHEV、FCV)</p>  <p>(株)アテックス: 浅野社長(右) 科達利實業: 勳董社長(中左)</p>	<p>販売網・エリアの拡大</p> <p>注力領域: 投資, 製造, 海外</p> <p>基盤領域: 投資, 製造, 海外</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Fitz Chem社買収 ○ 米国中西部の顧客、在庫拠点の拡充 ○ フランス・リヨン支店開設 ○ 化粧品原料の販売、研究機関と協業 <p>目指す市場: 米国機能素材・パーソナルケア市場 欧州化粧品市場</p>  <p>リヨン支店の外観</p>

KGI達成に向けた新たな取組み ②

<p>(株)Kyuluxへ出資</p> <p>注力領域: 投資, 製造, 海外, 研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 有機ELの発光素子原料の開発のベンチャー企業 ○ 熱活性化遅延蛍光(TADF)を用いた次世代技術 <p>目指す市場: 有機EL市場</p>  <p>有機EL青色発光材料</p>	<p>ペプチスター(株)へ出資</p> <p>注力領域: 投資, 製造, 研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特殊ペプチド医薬品技術を保有 ○ 次世代の中分子医薬品の合成・製法の研究開発 ○ 最先端技術と情報更新 <p>目指す市場: 次世代医薬品市場</p>
<p>耐腐食性反応塗料の開発 PatinaLock®-Σ</p> <p>基盤領域: 製造, 研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関西電力(株)、(株)京都マテリアルズ、三菱日立パワーシステムズ(株)と共同開発 ○ 鋼材の耐腐食性の向上によるメンテナンスコスト削減 <p>目指す市場: 火力発電プラント等のインフラ市場</p>  <p>腐食環境と用途例</p>	<p>研究開発活動の強化</p> <p>育成領域: 投資, 研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ INKRON社と人財・技術交流強化 ○ 半導体用設計技術「Axonerve IPコア」の市場開拓 ○ IBM社のRFIコンソーシアムを通じ、脳型デバイス、生体模倣技術の研究 ○ 国公立・私立大学、研究機関との共同研究 <p>目指す市場: AI、IoT、5G、フォトニクス、カーエレクトロニクス、環境ビジネス市場</p>

「企業風土の変革」マインドセットの徹底/経営基盤の強化の進捗



Copyright © 2018 NAGASE & CO., LTD. 27

KGIとKPIの進捗



KGI (Key Goal Indicator) : 目標とする指標

KGI	2016年度	2017年度	2018年度(計画)	2020年度
連結売上高	7,223億円	7,839億円	8,280億円	1兆円 以上
連結営業利益	150億円	241億円	255億円	300億円 以上
ROE	3.7%	5.8%	6.0%	6.0% 以上

KPI (Key Performance Indicator) : KGI達成のための因数指標

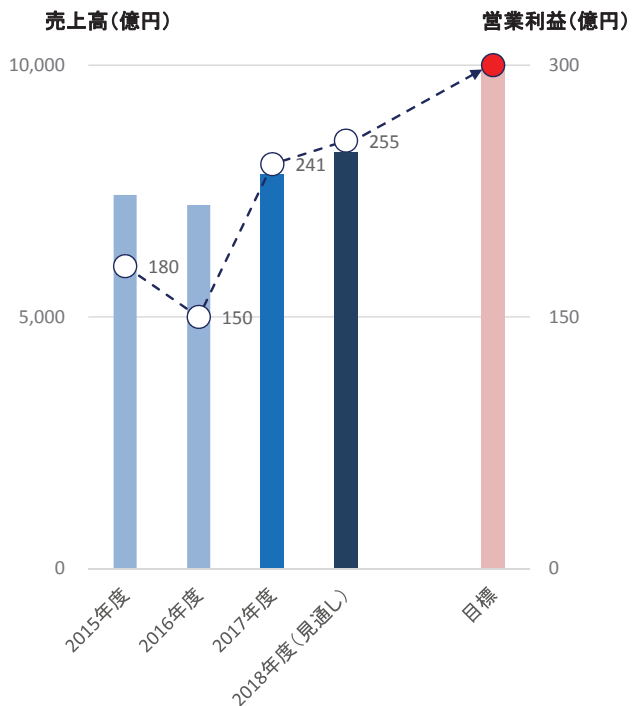
変革/戦略	施策	KPI (指標)	2016年度	2017年度	2018年度(計画)	2020年度
収益構造 変革の指標	注力ビジネス拡大 (ポートフォリオ最適化)	*注力領域 営業利益額	119億円	131億円	133億円	169億円
		注力領域成長投資分配率	46%	52%	59%	35%以上
	グローバル展開の加速 (収益基盤の拡大強化)	*海外グループ会社売上高	3,502億円	3,890億円	4,051億円	6,000億円
		米州売上成長率	90%	103%	110%	170%
製造業の収益力向上 (収益基盤の拡大強化)	*グループ製造業営業利益額	90億円	114億円	115億円	144億円	
	*損益分岐点売上高比率	76%	76%	77%	73%	
企業風土 変革の指標	効率性の追求 (経営基盤の強化)	グループ連結売上高販管費比率	10.6%	10.0%	9.9%	9.4%
財務戦略 指標	投資	成長投資額	82億円	**235億円	**423億円	**1,000億円
	強固な財務体質	格付け(R&I)	「A」	「A」	「A」以上	「A」以上

*単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません

**中計期間中の合計額

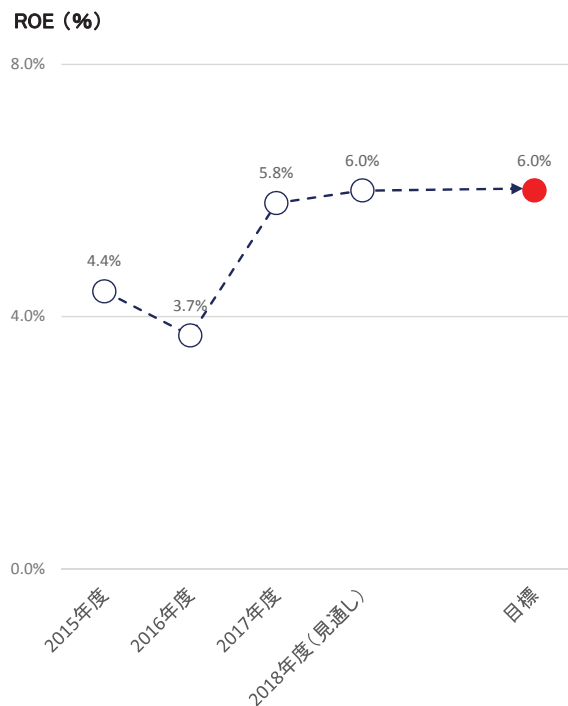
売上高/営業利益

1兆円/300億以上



ROE

6%以上



米州におけるビジネスについて

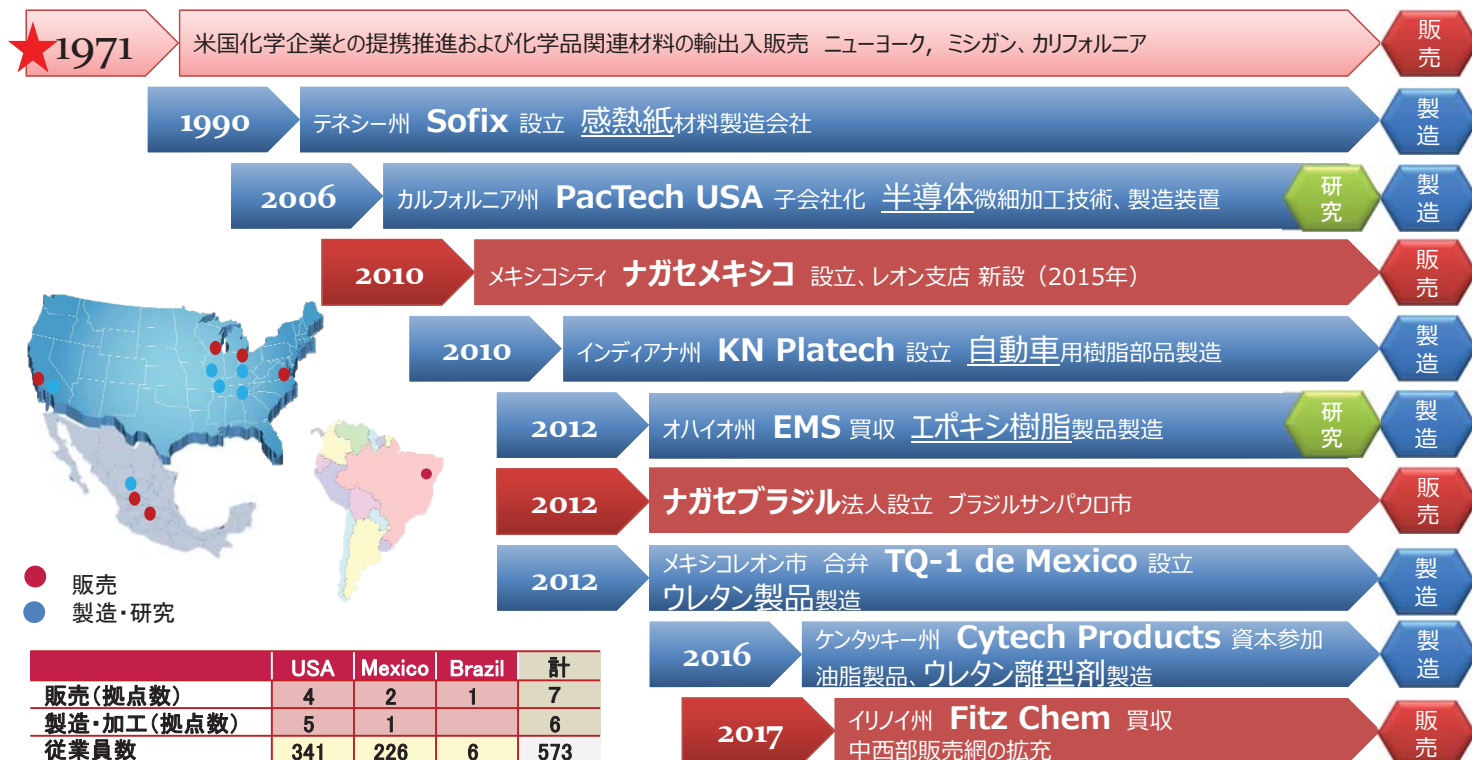
Nagase America Corporation CEO
 Nagase do Brasil Comércio de Produtos Químicos Ltda. CEO
 Nagase Enterprise Mexico S.A. de C.V. CEO

内田 龍一

事業展開の沿革



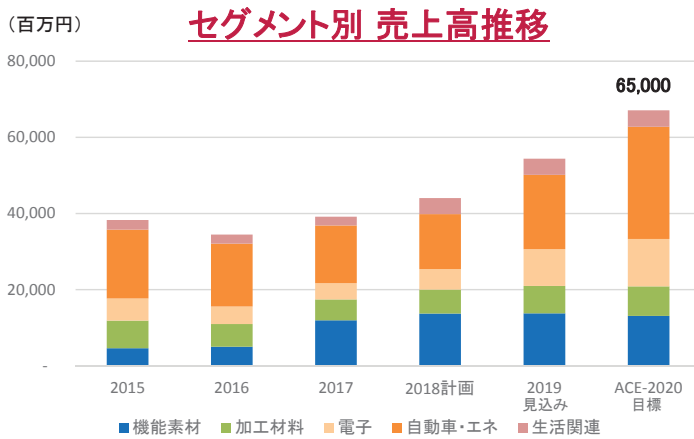
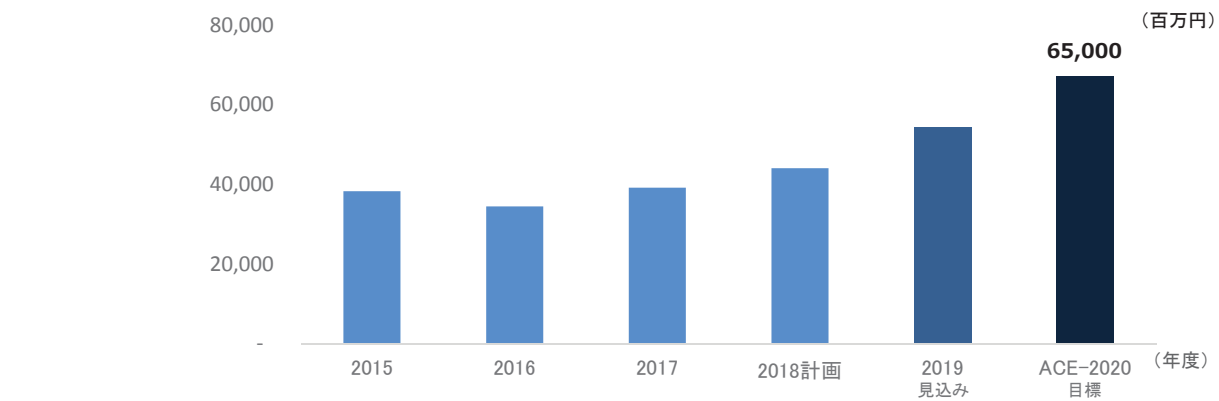
Nagase America Corp 設立



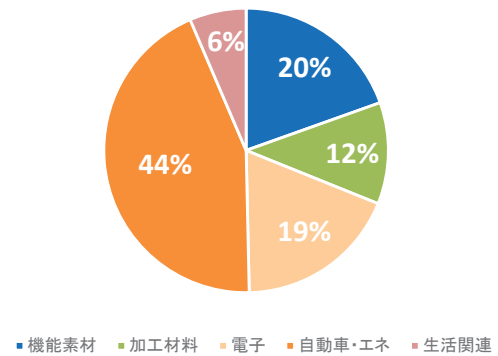
※ 2018年4月現在
 ※ 拠点数には支店を含む

※ EMS: Engineered Materials Systems Inc.

中期経営計画「ACE-2020」 目標売上高



セグメント別売上構成比 (ACE-2020)

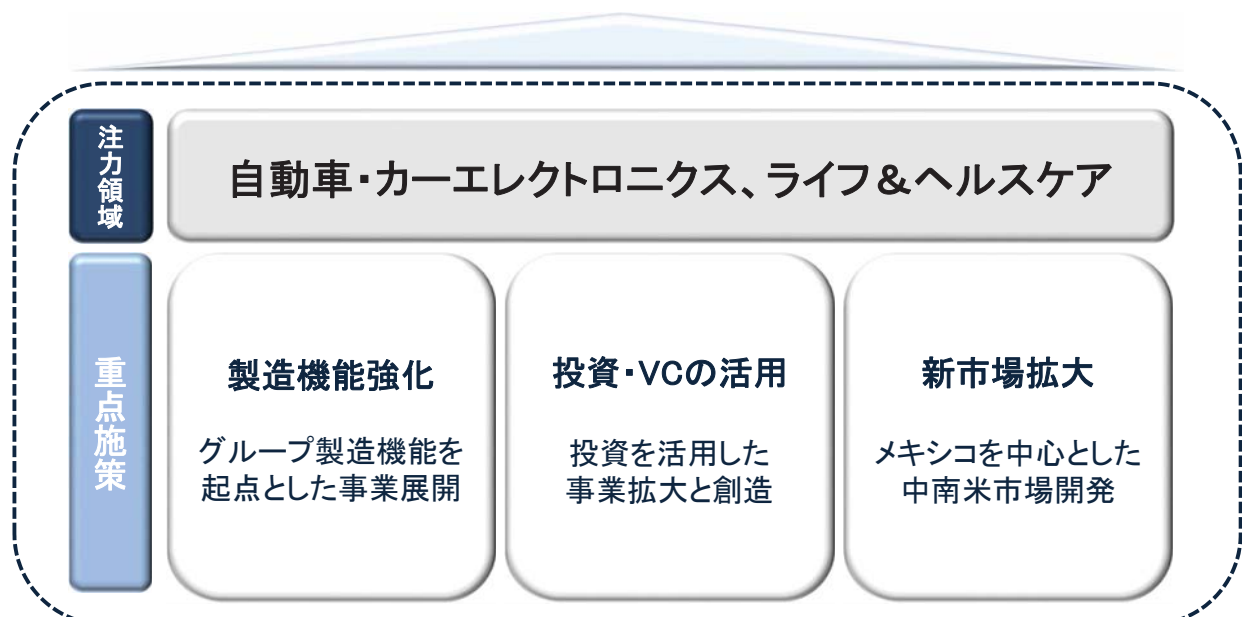


※ 売上高の単純合算値(所在地別)であり、決算公表の地域別(仕向地別)売上高とは異なります。

中期経営計画「ACE-2020」達成に向けて

- 注力領域** : 自動車・カーエレクトロニクス、ライフ&ヘルスケア
- 重点施策** : 製造・加工機能強化、投資・VCの活用、新市場開拓
- 管理体制** : 統括機能を発展し現地化を進めながら、本社管理機能を担える体制の構築

地域特性のある米国発信Bizの深耕を図り、「ACE-2020」のKPI「G6000※」を達成



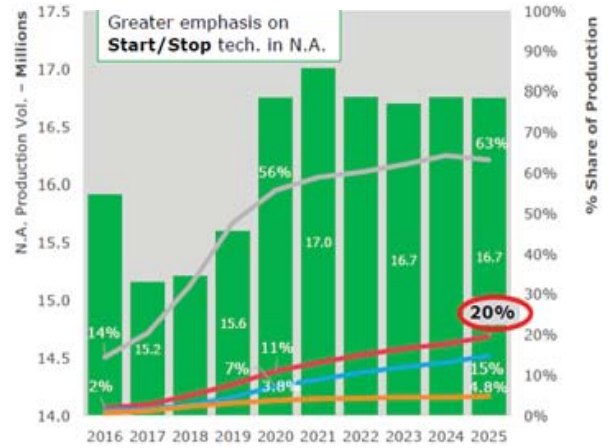
※G6000: 中期経営計画「ACE-2020」のKPI(海外グループ会社売上高6,000億円)

日本の実績を強みに部材・生産技術をソリューションプロバイド
 米国自動車産業のクラスターであるミシガンおよびベンチャー企業インキュベータであるカリフォルニアの両立地を活かし、シーズとニーズを“Connect”する

変革を商機と捉える～NAGASEのCASE～

<p>Connected カーマルチメディア、HMI</p> <ul style="list-style-type: none"> シリコン 耐熱偏光フィルム AR、AGフィルム 半導体関連部材 	<p>Autonomous センサー</p> <ul style="list-style-type: none"> LiDAR <p>育成</p>
<p>Shared 将来内装に対応する 技術探索中</p> <p>育成</p>	<p>Electrification インバーター、モーター、 バッテリー</p> <ul style="list-style-type: none"> エンジニアリングプラスチック エポキシ樹脂 (封止剤、接着剤) 電気駆動部品 <p>注力</p>

伸張する北米自動車市場
 生産台数と各種シェア



(出展: HIS Markit)

- 北米自動車生産台数
- 電動車(HV+EV)
- HV(ハイブリッド)
- EV
- アイドリングストップ

食品、パーソナルケア素材を中心に幅広い用途展開で中核事業へ

1. 米国展開に必要なライセンス取得

- NON-GMO
- Natural Flavor
- VEGAN



2. Webマーケティング

Webinarの利用
 (双方向技術情報交換ツール)



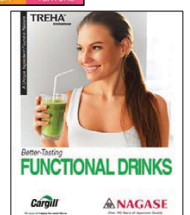
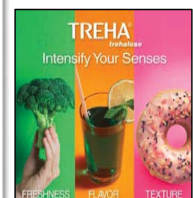
3. 販売網獲得

Fitz Chem社の買収
 販売組織および顧客基盤を獲得



顧客と双方向の
 コミュニケーションにより

- 知名度向上
- ニーズの把握
- 用途の提案



重点施策：製造機能強化

グループ製造機能を起点とした事業展開
米国・メキシコ生産品として市場に供給



半導体微細加工
製造装置



エポキシ樹脂製品



自動車用樹脂製品

TQ-1 de
MEXICO S.A.
de C.V.



ウレタン製品

Cytech
Products Inc



ウレタン離型剤



感熱紙材料

Nagase America

(販売・マーケティング・投資・新事業創造)

半導体・環境エネルギー



自動車・EV



製紙材料・委託製造



重点施策：投資・VCの活用

投資を活用した事業拡大と創造

【投資】2017年、Fitz Chem社の買収

米国中西部を販売エリアとするスペシャリティケミカルおよび
パーソナルケア事業のディストリビューター

新たにNAGASEに加わった機能

- 中西部約20州を超える販売エリア
- 約10ヶ所の販売拠点と在庫拠点
- 1,000社を超える顧客基盤

Nagase Americaの持つ東海岸・西海岸エリアから中西部への展開が
可能になり、事業シナジーを加速し、全米への事業を展開して参ります

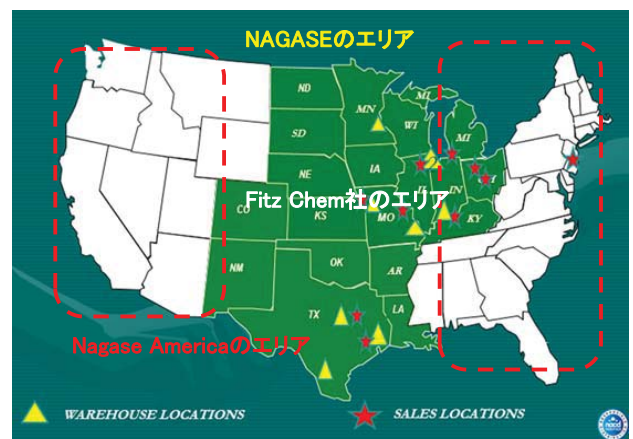
【VC】2016年、VCに出資

新しい技術と情報を持つ企業への投資機会と
スタートアップ企業との協業や事業化プロセスのノウハウを獲得

スタートアップ企業が集結するシリコンバレー事務所の立地を活かして、
グループの新規事業の発信拠点として活動中

進行中のテーマ

- 有機EL・次世代ディスプレイ関連素材
- LiDAR・センサー関連技術
- 3Dプリンティング連携技術



メキシコを中心とした中南米市場開発



メキシコ市場開発

- 1. 物流網**
成長する自動車産産業において、専用トラックによるデリバリー網の拡充
- 2. 製造機能**
TQ-1 de MEXICO社を起点に、製造・加工機能による付加価値加え、自動車内装顧客へ事業拡大
- 3. 化粧品、ヘアケア市場**
メキシコ独自のニーズヘアプローチ

市場

自動車材料



食品素材



化粧品素材



ブラジルを起点に南米各国への販売代理店網の拡充(コロンビア、ペルー、アルゼンチン)
自社製品に特化した、Food、パーソナルケアへの注力
農業立国の強みを活かしたアグリ・飼料分野における事業構築
天然資源を活用した素材輸出ビジネスの構築

香料原料:
オレンジオイル、レモンオイル

食品用色素:
アナトー



3Dプリンタ の新規技術開発の中心である欧米市場に対して機能性素材の提供

現在成長を続けている3Dプリンタの市場の中心である欧米において、その開発トレンドを現地でつかみ、高品質の機能性素材を提供することにより、今後3年で急速な事業拡大が期待できる。
グループの連携により、まず欧米でのビジネスを立上げ、日本・アジア市場に展開の布石を打つ。

【3Dプリンタの世界市場】

- * 3Dプリンタ、材料、ソフトウェア&関連サービス
- 2016年 132億ドル ⇒ 2020年 289億ドル(見直し)
- 1位: 米国(約33億ドル)、2位: 欧州、3位: アジア、4位: 日本(<300億円)

最先端技術や情報動向を把握し、

各造形方式に必要な機能性素材、添加剤および
関連部材の展開を図る

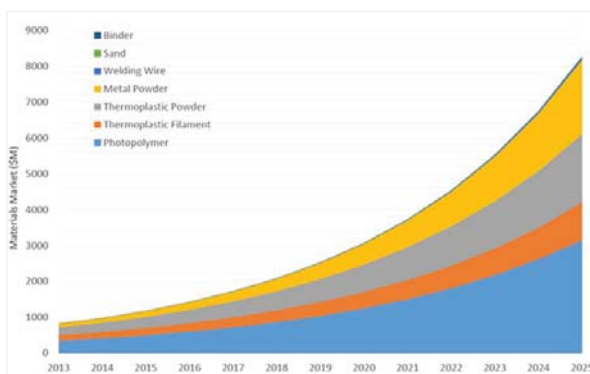
FDM
(熱溶解システム)

光硬化システム

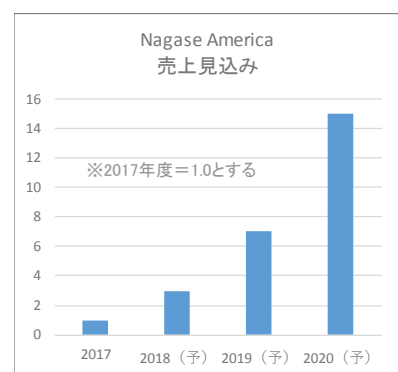
糸状のフィラメントに加工した熱可塑性樹脂を溶かし、ノズルから押し出し、一層づつ積み上げ造形する方式

液状の光硬化性樹脂をUVで一層づつ硬化させ積層する方式

米国市場の見込み



(出典:IDTechEx)



(参考資料)セグメント別概況

機能素材セグメント



<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,617	110%	1,700	105%
	海外	576	128%	579	100%
	連結調整	▲433	-	▲442	-
	合計	1,760	115%	1,837	104%
営業利益	国内	40	122%	41	103%
	海外	16	188%	16	95%
	連結調整	▲5	-	▲2	-
	合計	51	124%	55	107%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん等の償却含む)

2018年3月期 実績

売上高

1,760億円(115%)

- ◆機能化学品事業は、国内外における自動車生産台数の堅調な推移により、塗料原料およびウレタン原料の売上が増加したことに加え、米国でのディストリビューターFitz Chem社の買収による売上の増加があったことから、事業全体として売上は大幅に増加
- ◆スペシャリティケミカル事業は、国内では半導体関連等の電子業界向けを中心にフッ素ケミカル、エレクトロニクスケミカル、加工油剤原料の売上が増加し、海外ではエレクトロニクスケミカル等の売上が増加したことから、事業全体として増収

営業利益

51億円(124%)

- ◆増収により、増益

2019年3月期 通期見通し

- ◇塗料原料および半導体用途フッ素ケミカル等の販売が好調に推移し、また前期買収したFitz Chem社の業績が通年寄与。更に、成長に向けた開発案件の売上が増加し、増収増益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期		
	通期実績	前期比	通期見直し	前期比	
売上高	国内	1,661	108%	1,831	110%
	海外	1,596	109%	1,758	110%
	連結調整	▲628	-	▲699	-
	合計	2,628	108%	2,890	110%
営業利益	国内	38	136%	43	111%
	海外	29	131%	37	127%
	連結調整	▲1	-	+0	-
	合計	67	132%	80	120%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2018年3月期 実績

売上高 2,628億円(108%)

- ◆カラー&プロセッシング事業は、国内において工業用および包装材料用の合成樹脂、顔料・添加剤や情報印刷関連材料等の売上が増加し、海外においても印刷関連ビジネスの売上が好調に推移したことから、事業全体として増収
- ◆ポリマーグローバルアカウント事業は、国内、グレートチャイナおよびアセアンにおいて売上が増加したことから、事業全体として増収

営業利益 67億円(132%)

- ◆増収に加え、製造子会社における収益増加等により、増益

2019年3月期 通期見直し

- ◇前期に獲得した新規商権が拡大し、またグレートチャイナ・アセアンを中心にOA・ゲーム・電子機器向け合成樹脂、更に情報印刷関連ビジネスが好調に推移し、増収増益見直し

電子セグメント

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	18/03期		19/03期		
	通期実績	前期比	通期見直し	前期比	
売上高	国内	1,297	100%	1,283	99%
	海外	753	106%	697	93%
	連結調整	▲757	-	▲745	-
	合計	1,293	101%	1,235	95%
営業利益	国内	49	125%	48	96%
	海外	40	171%	37	92%
	連結調整	▲1	-	▲1	-
	合計	89	141%	84	95%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん償却含む)

2018年3月期 実績

売上高 1,293億円(101%)

- ◆電子化学品事業は、フトリソ材料や装置関連の売上が増加し、電機・電子業界向け等の変性エポキシ樹脂関連の売上も堅調に推移したことから、事業全体として増収
- ◆電子資材事業は、スマートフォンのモデルチェンジにより加工部材の売上が減少したため、事業全体として減収

営業利益 89億円(141%)

- ◆増収に加え、製造子会社の収益増加等により、増益

2019年3月期 通期見直し

- ◇自動車・エネルギーセグメントに一部事業を移管しており、当該移管の影響を除くと、売上・利益ともに前年並みの見直し
- ◇前期、電子部品用製造装置の特需があったが、当期は当該ビジネスが減少し、また一部ディスプレイ関連部材の販売が減少するものの、変性エポキシ樹脂およびフトリソ材料ともに好調に推移また中国におけるガラス薄型加工、フレキシブルディスプレイ用途ポリイミドフィルムビジネス等が好調に推移する見直し
- ◇成長に向けた戦略的投資により費用が増加する見直し

<所在地別売上高・営業利益>

	(億円)				
	18/03期		19/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	674	115%	795	118%
	海外	840	111%	875	104%
	連結調整	▲218	-	▲245	-
	合計	1,297	115%	1,425	110%
営業利益	国内	2	-	12	425%
	海外	21	107%	23	109%
	連結調整	▲0	-	▲0	-
	合計	24	157%	35	147%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2018年3月期 実績

売上高 1,297億円(115%)

◆自動車材料事業は、国内、グレーターチャイナおよびアセアンにおいて樹脂ビジネスが好調に推移したこと等により、増収

営業利益 24億円(157%)

◆増収により、増益

2019年3月期 通期見通し

◇電子セグメントから一部事業の移管を受けており、当該移管の影響を除いても、増収増益見通し

◇自動車生産台数は横ばいの見通しではあるものの、自動車の電気・電子化に伴い、国内、グレーターチャイナおよびアセアンを中心に高機能材料の販売が増加。
更にカーエレクトロニクス関連部材の販売も好調に推移し、増収増益見通し

生活関連セグメント

<所在地別売上高・営業利益>

	(億円)				
	18/03期		19/03期		
	通期実績	前期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	1,006	99%	1,033	103%
	海外	123	107%	140	113%
	連結調整	▲276	-	▲287	-
	合計	853	101%	886	104%
営業利益	国内	70	112%	69	99%
	海外	2	237%	5	194%
	連結調整	▲30	-	▲31	-
	合計	42	127%	43	103%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産等の償却含む)

2018年3月期 実績

売上高 853億円(101%)

◆ライフ&ヘルスケア製品事業は、食品素材分野はトレハ®等の売上は国内では横ばいとなったものの、欧州を中心とする海外では増加。スキンケア・トイレタリー分野は、AA2G®の海外での主要顧客に対する売上は減少したものの、国内での主要顧客に対する売上は増加。医療・医薬分野は、医薬品原料・中間体、医用材料および製剤事業の売上が減少。事業全体として売上は微増

◆ビューティケア製品事業は、一般的に販売が低調であったことから、事業全体として減収

営業利益 42億円(127%)

◆増収により、増益

2019年3月期 通期見通し

◇食品素材分野において、トレハ®に加え林原ヘスペリジン®やファイバリクサ™等の機能性素材製品等の販売が好調に推移し、またスキンケア・トイレタリー分野において、原料販売が好調に推移し、事業全体として、増収増益見通し



<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2018年5月25日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。